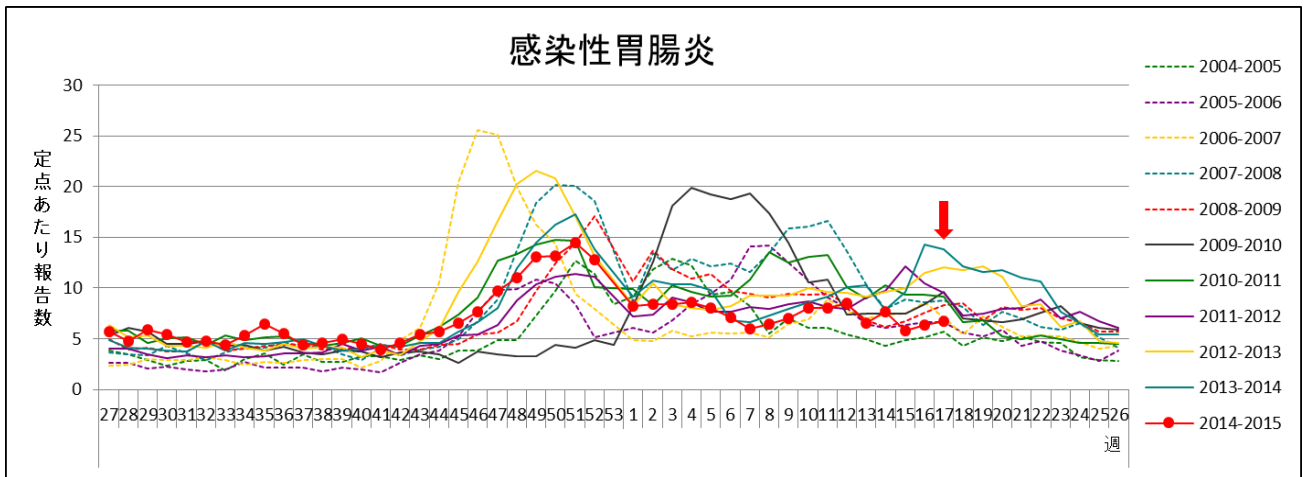


感染性胃腸炎週報 2015年 第17週 (4月20日～4月26日)

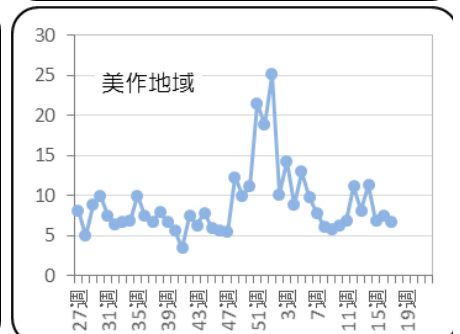
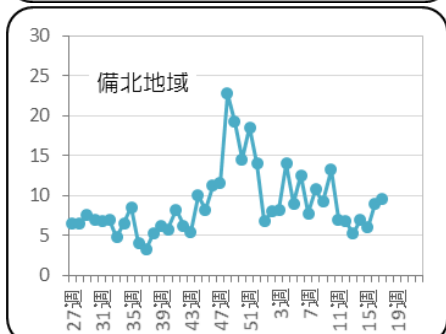
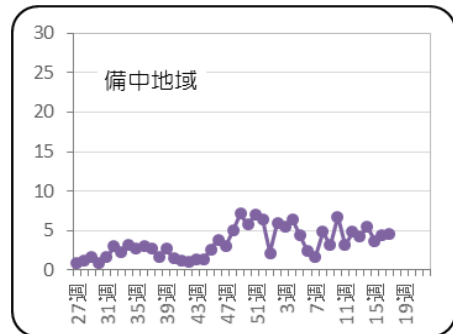
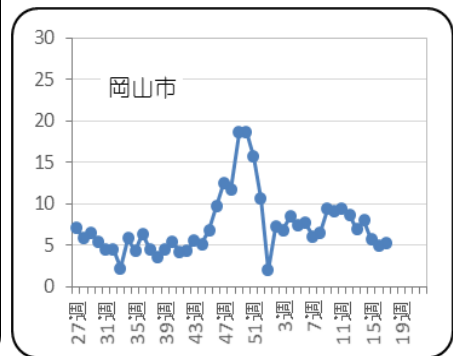
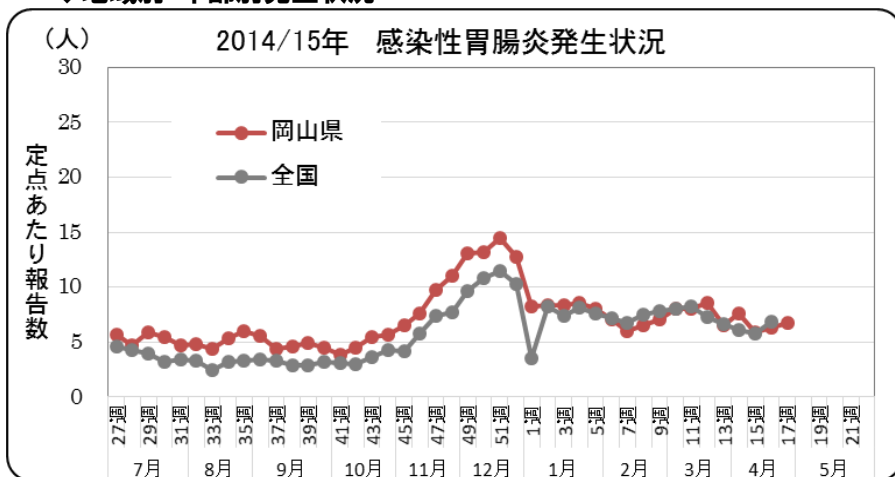
○感染性胃腸炎は、県全体で365名(定点あたり6.35→6.76人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

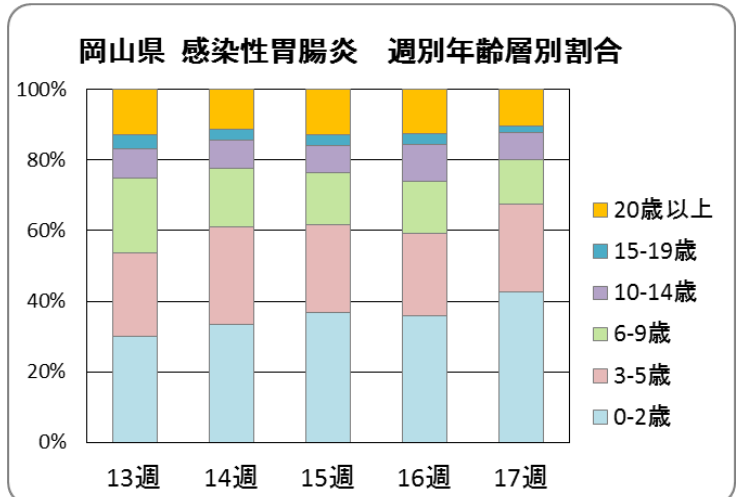
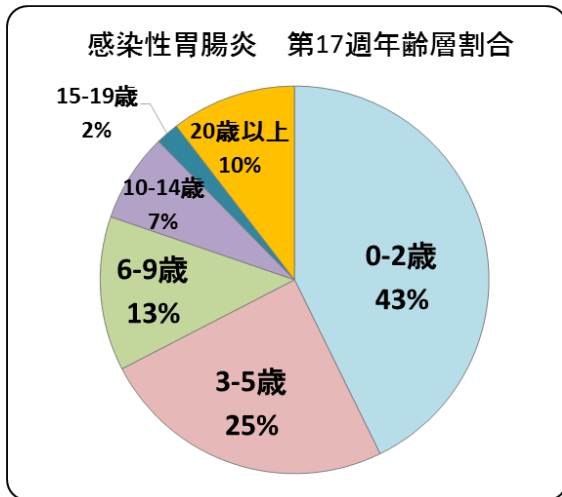


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で365名(定点あたり6.35→6.76人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。排便後や調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・嘔吐物は適切に処理をするなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、備北地域（9.50人）、倉敷市（8.64人）、備前地域（8.10人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢層割合は、5歳以下の乳幼児が全体の68%を占めており、0-2歳の年齢層で増加傾向がみられています。

例年3~5月には、0-2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[IASR Vol.35 p.63-64: 2014年3月号 ロタウイルス 2010~2013年（国立感染症研究所）](#)

◎ウイルスによる感染性胃腸炎に注意しましょう。

- * 石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- * 患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。
- * 塩素系漂白剤などを使った消毒も、併せて行いましょう。
- * 通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともあります。体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)
[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

